令和４年１１月 経営協議会（オンライン会議）議事録

Ⅰ．日　時　　令和４年１１月１７日（木）　１４時００分～１５時４６分

Ⅱ．出席者　　中山学長、香藤、河田、草開、黒木、塩尻、島田、萩原、舩橋、正宗、中谷、渡邉、藤江、金原、手島、堀、岩崎、小澤、佐藤（之）、松原、横手、諏訪各委員

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　角倉監事
（欠席者：犬養、岩田、銭谷、西堀、宮坂各委員）

Ⅲ．前回議事録について
原案のとおり承認された。

Ⅳ．審議事項
１．国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正について
手島理事から、国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

Ⅴ．報告事項（◎学外委員、○学内委員）
１．令和４年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の選定結果について
中山学長から、令和４年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の選定結果について、資料に基づき報告があった。
主な意見は以下のとおり。

◎　「well-being の実現へ貢献」や「well-being 人材育成」等、well-being をどのような意図で使っているのか。

○　well-being は広い意味で使われるので、様々なものをこの中に入れたいという意図があった。千葉大学では亥鼻キャンパスに医療系の学部や附属病院があって、そこが研究を進め、診療を行っている。亥鼻での医学、薬学、看護学の研究は外せないが、それに加えて、西千葉キャンパスにおける生命科学や環境リモートセンシングによる災害対応の研究、園芸学部における新しい食の研究等、少し先を見据えた研究が進んでいて、それらについてキャンパスを超えて融合したものを西千葉の新しい土地（リサーチパーク）に作りたいと考えた。何にフォーカスするかを考えた場合に、広い意味で well-being という言葉を使用した。

◎　SDGs にも近いものがあるということを理解した。

◎　URA は現在何人いるのか。この補助金で URA の体制を強化する意図はあるのか。URA の方々を様々なところでうまく使うと大学が活性化すると思う。

○　現在１３～１４名程度である。国際的な交渉や情報発信を強化しようということで国際的に活躍できる URA を公募中である。一層強化を図っていきたいと考えている。

○　海外の機関との契約等、体制が整わず、全て外注するということが続いてきた。URA だけではなく、常勤の事務職員を含めてこういった人材が必須となっている。

◎　千葉大学は全員留学がポリシーであるが、１人留学させるときに多数のメールのやりとり等があると思う。それを次々にこなせるような人が事務職員にいることが望ましい。大学全体でカバーできるような体制作りを、この機会に進めていければよいと思う。

○　ENGINE において、海外対応の事務スタッフを毎年２～４名採用し、すでに１０名以上増えている。教員については、ネイティブスピーカーを１５名程度雇用して、英語の教育を充実させており、それとは別に国際未来教育基幹で雇用した４名が英語のプログラム開発を行っている。今回の補助金は ENGINE とは異なるものであるが、すでに全学で始めているデータサイエンス教育を強化することに利用したい。

◎　リスキリングについて、千葉大学としてはどのような分野を想定しているのか。

○　現段階では、①医学部附属病院で行っている「ちば医経塾」のようなヘルスケア関係、②従来のプログラミング、③園芸経済学や食料資源等、食と近い分野、④卓越大学院でも進めているデジタル・ヒューマニティーズの４つのカテゴリーを考えている。また、大企業は自前でリスキリングを行っているところが多いので、県内や近隣の中小企業と連携しつつ、千葉県全体の DX 化に向けても貢献していきたいと考えている。再来年度からは、修士のリスキリングのトライアルプログラムを始める。最終的には、１年間で修士課程を修了させるプログラムを作り、リスキリングに活用できればと考えている。

◎　生産性のアップや国民全体のスキルアップは、今後の日本の発展のために重要なアイテムとして、政府の経済政策においても特に力を入れている。千葉大学においても、積極的に対応いただけたらよいと思う。

◎　これからの大学は、社会の課題をどう受け止め、どう自己改革していくかという点が非常に大切になり、そのような形で自己改革をした大学が評価を高め、生き残っていけると思う。新しいことをやるにはどこかを削ることが必要であり、大学としてその方針を併せて考え、示していくことが大切だと思う。あれもやりますこれもやりますではなく、これをやるためにここは少し犠牲になってもらうということも必要だと思う。

２．国際未来教育基幹高等教育センターにおける取組みについて

　小澤副学長から、国際未来教育基幹高等教育センターにおける取組みについて、資料に基づき報告があった。

　主な意見は以下のとおり。

◎　トリプルダッシュボードやオープンバッジ等、名称だけでは内容が分からないので、学外に公表する際には、誰が見ても分かるような言葉を入れた方がよい。

３．Library of the year 2022 ライブラリアンシップ賞の受賞について

　竹内副学長から、Library of the year 2022 ライブラリアンシップ賞の受賞について、資料に基づき報告があった。

４．令和４年司法試験の結果について

小林専門法務研究科長から、令和４年司法試験の結果について、資料に基づき報告があった。

５．医学部附属病院の運営状況について

横手副学長から、医学部附属病院における新型コロナウイルス感染症への対応状況、２０２２年４月から９月の累計の収支状況、２０２２年４月から１０月の稼働状況及びその他の運営状況について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

◎　レンガの庭のような遊びの空間は、人と人との接点を生む役割を果たし、組織にとって大事な部分である。ヨーロッパの大学のように、こういう場所をキャンパスの中に作り、人と人との交わりをより密接なものにしていくことができれば、良い成果があがっていくと思う。ぜひうまく使ってほしい。

○　この３年間、息の詰まるような生活の中で、現場からこのアイディアが出てきた。新しい試みではあるが、これを活用・発展させて、みんなが心豊かに穏やかに仕事に向き合えるよう、工夫していきたいと思う。

６．新型コロナウイルスへの対応について

中谷理事から、本学における新型コロナウイルス感染者等の状況について報告があった。続いて、小澤副学長から、現在の授業の実施状況等について報告があった。

以　上